

日本計量新報

計測と科学

日本計量新報社

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112

Yamaha
清潔な環境を創造する
安全なデジタル・自動計測機

計測・制御機器のP&S
デジタル・アナログ・マイ
コンピュータ制御機器の設計



UDS-1VII/N-WP

天和製機株式会社
TEL: 03(376) 818-6577

今週の主な記事

- ① 06年11月の機械計測器生産額と東北大学総長による講演
- ② 新年挨拶、寄稿
- ③ 経営アンケート、第15回計測工学研究発表大会報告
- ④ 計量制度見直し座談会
- ⑤ あいち座談会
- ⑥ 寄稿・齊藤勝夫氏、計量ひとくちメモ、社説
- ⑦ 新製品とD、講光薬、A&D新年会ほか
- ⑧ ⑨ ⑩

11月の計量計測機器生産

電気計測器 458億円、分析機器は17.3%増

精密測定機器5.5%減に

経済産業省が1月16日に公表した2006年11月の機械統計確報によると、計量計測機器の生産額はおもなところで前年同月比で増えたのは、工業用長さ計11.1%増、分析機器で17.3%増、ガスメータが37.7%増、医用測定器11.3%増である。減ったのは電気計測器9.7%減、工業用計重機11.0%減、精密測定機(光学測定機を含む)13.0%減、試験機27.3%減、測量機器は4.1%減。

電気計測器は9.7%減

電気計測器の06年11月の生産額は機械統計確報では435億9500万円。(社)日本電気計測器工業会のまとめでは、458億200万円(集計項目が少し異なるため)である。工業会のまとめによると電気測定器が287億7700万円(前年同月比16.0%減、以下

かつこ内は前年同月比)。

電気測定器の内訳を見ると、電圧・電流・電力測定器は9億4500万円(12.8%増)、波形測定器11億1500万円(5.7%減)、無線通信測定器13億6800万円(30.8%減)、回路素子・材料測定器3億4200万円(1.2%増)、伝送特性測定器7億1400万円(19.0%減)、光測定器

4億2600万円(8.1%増)、測定用記録計・データ処理装置7億400万円(20.5%増)、その他の電気測定器42億4600万円(4.4%減)である。

半導体・IC測定器は189億1700万円

生産金額で電気測定器の41.3%を占める半導体・IC測定器は11月は生産金額は189億1700万円(19.9%減)となった。前月比では0.2%増。11月の生産数量は954台。このなかではメモリICテストの生産額が85億5100万円(6.7%減)となっており、半導体・IC測定器の生産額の45.2%を占めるので影響がある。

電気計測器の工業用計測制御機器は110億7700万円(6.8%増)

である。前月比では17.5%増。内訳は、プロセスオートメーション用計測制御機器108億7400万円(7.4%増)、ファクトリーオートメーション用計測制御機器は2億300万円(19.1%減)と厳しい状況だ。

電気計測器は37億4100万円(1.7%増)。内訳は、指示計器が6億1000万円(23.7%増)と好調で、電力計が3億3100万円(1.8%減)。

放射線測定器は6億2400万円(25.2%減)

放射線測定器は6億2400万円(25.2%減)である。

環境計測機器は15億8300万円

環境計測機器は15億8300万円(1.8%減)。内訳は、大気汚染、水質

汚濁、騒音・振動計測器15億2300万円(1.8%減)、自動車用公害測定機器6000万円(1.6%減)。

医用測定器は11.3%増

医用測定器は72億1300万円の生産で前年同月比11.3%増である。前月比7.9%増。数量は44万1267台(13.4%増)、前月比2.7%増。

精密測定機器は91億1600万円

精密測定機器は91億1600万円(5.5%減)。その他の積算体積計を見ても、水道メータは14億3300万円。積算式ソリン量器は23億600万円。

圧力計(メノイド形)は、11億7200万円。

(次号へつづく)

講演会

東北大学 井上明久総長による「金属ガラスの実用化とセンサへの応用」

2月20日、グラントビル市ヶ谷で

(社)日本計量機器工業連合会は、今年度最終回となる第6回研究会を、金属材料研究における世界的権威である東北大学総長井上明久氏を講師に迎え、「金属ガラス」をテーマに開催する。

新金属文明の幕を開くとも言われる「金属ガラス」は、東北大学金属材料研究所において世界に先駆けて開発され、静的及び動的な機械的性質、軟磁気性質、高耐食性、対磨耗性、光に対する高

反反射性等々、広範な分野で優れた特性を示し、多数の応用の可能性から未だ材料として高い注目を集めている。

市ヶ谷(東京都新宿区市谷本村町4-1)電話03-3268-1011



【テーマ】金属ガラスの実用化状況とセンサへの応用

【講師】東北大学総長工学博士井上明久氏

【定員】100名(先着順にて受付・定員に達し次第締め切り)

新年特集第4集

500円▽会員外8,900円(消費税込)※申込書到着後、請求書を送付、開催日までに振込み※新技術導入・活用研究会参加登録者は既に聴講料支払済み

【申込み】添付の申込書によりメール又はFAXで申込み。

【申込先・問合せ先】(社)日本計量機器工業連合会

TEL: 03-3268-1212, FAX: 03-3268-2167, Eメール: horii@keikoren.or.jp または sakair@keikoren.or.jp